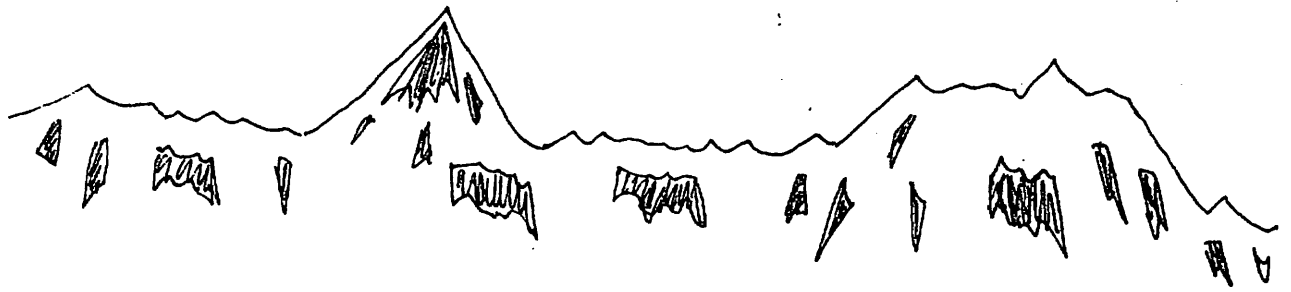
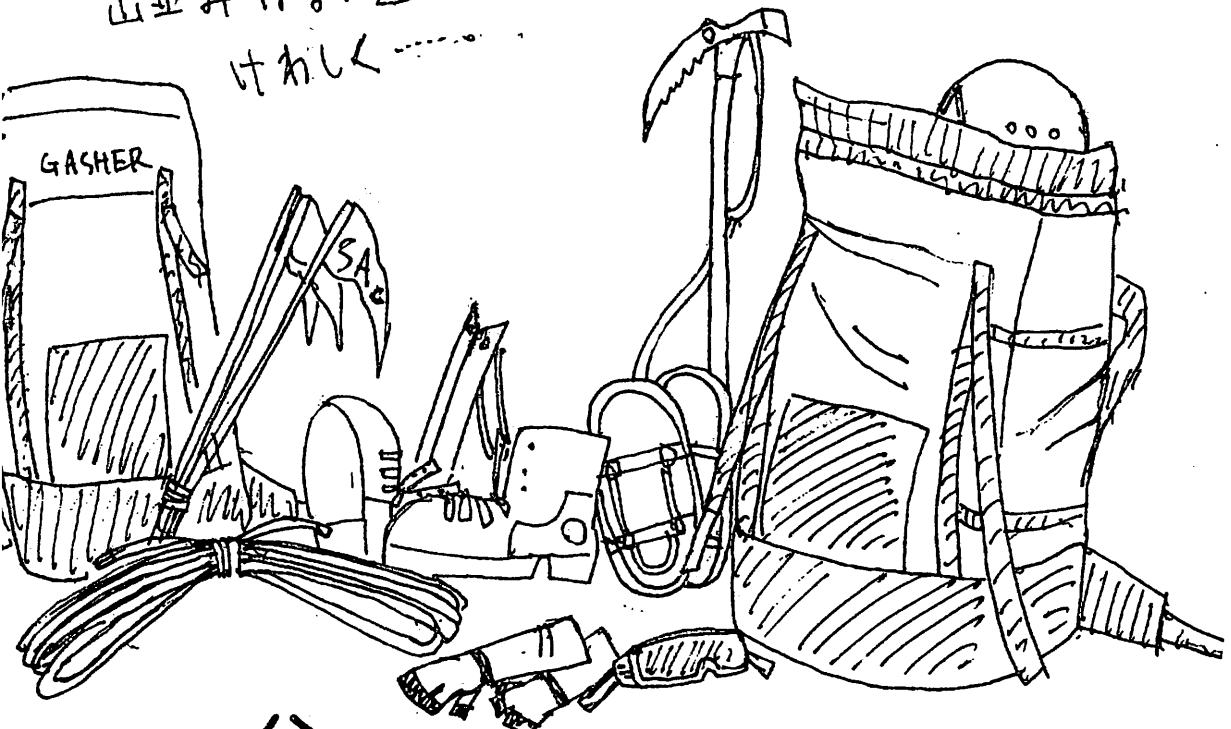


97122
積雪期(00'1月~5月)

山行報告書



山並みはるか遠く……
けわしく……



信州大学山岳会

目次

とす恋♡

- 1/2~13 中ノ太田切川アイスクライミング L 岸本
- 1/15~16 成人式山行 in 西駒山荘 L 横山丁
- 1/19~23 ハケ岳定着5日間 L 大木B
- 1/25 中ノ小黒川ツバクロ沢 L 大木B
- 1/29, 30 ハケ岳広河原沢右俣 L 大木B
- 1/29, 31 明神岳西南稜 L 麦谷
- 2/4 中ノ太田切川野猿の岩場 L 大木B
- 2/6~8 ハケ岳, 小同心クラック, 中山屋根 L 麦谷
- 2/11~18 北ノ霞沢岳・六白山 L 横山丁
- 2/ 南ノ甲斐駒ヶ岳~鉾岳 L 大木B
- 2/22~26 西穂高岳~檜ヶ岳 L 大木B
- 2/24, 25 ハケ岳阿弥陀岳南稜 L 松崎
- 2/4 明神岳西南尾根 L 日高
- 2/6~7 ハケ岳西面アイス L 大木B
- 2/10~17 中央ノパス北部縦走 L 松崎
- 2/22~31 北ノ後立山, 鹿島槍~白馬 L 岸本
- 4/13~14 北ノ鹿島槍ヶ岳東尾根 L 岸本
- 4/23, 24 雪訓合宿 in 柵池 L 岸本
- 4/29, 30 富士山 L 横山丁
- 4/30 針ノ木岳(山スキー) L 松崎
- 5/3~5 南ノ弘法小屋尾根 L 横山丁
- 5/13, 14 北ノ錫杖岳前衛及ノ L 横山丁
- 編集ゴキッ 大木B

中ア大田切川本谷アイスクライミング

期間：1月12日、13日（2+0）

メンバー：岸本（3）大木（3）

計画当初は二日にわたりバリバリ登る予定であったが12日は天気が悪く13日のみの日帰りとなった。谷までのアプローチはただのトラバース道で快適。1時間もかからずT・Sとなる取水口へ着く。しかし肝心の氷の方は12月中暖かかったせいか全く発達しておらず谷には轟々と水が溢れかえっていた。悪沢右岸のゲレンデと呼ばれるところにかろうじて登れそうな氷(ちょっと厚めのベルグラか?)を見つけ、それを登って早々松本に引き返した。

(記：岸本)



2000年 1月 15・16日

成人式山行 in 西駒山荘.



新成人

梶原 恵

松崎 林太郎

横山 勝丘

野川 謙介

MEMBER

L. 横山 勝丘 ²	岸本 俊朗 ³	日高 弘次 ³	大木 信介 ³
原田 亮介 ⁵	梶原 恵 ²	松崎 林太郎 ²	横山 輝生 ²
石岡 春彦 ¹	中川 隆志 ¹	中村 圭一 ¹	野川 謙介 ¹

GUEST 柴原 炭 (スキ-山岳部.2)

1/5 桂小場₈₁₀ ~ (信大コース) ~ 将棊頭山₁₄₃₀ ~ 西駒山荘 ~ 宴会

1/6 山荘₉₀₀ ~ 桂小場₁₁₃₀ ~ 見はらしの湯

持参した食糧・酒.

- ・日本酒 4升
- ・ビール 500ml 1ダース
- ・ウイスキー 4.8ℓ
- ・梅酒 1ℓ
- ・つまみ 大量
- ・かきピー 2kg
- ・すめ 15枚
- ・ピーナッツ 2kg
- ・その他つまみ 11袋
- ・ハム、明太子など 9個
- ・もち 110個
- ・うどん 6kg
- ・肉 10kg
- ・野菜 大量

年1回のお楽しみ。今年は9人が吐いた。最高のパフォーマンスは日高先生の「まんたん先生」。来年もぜひやろう。新成人がいなくても。



これは突然の出来事だった...

ハケ岳 定着 5日間

○ 2000年 1/19 ~ 1/23 (5+0)

○ メンバー、△ 大木 信介・梶原 恵

1月19日 (ジョウゴ沢・アスクライミング)

- ◎ 6:00 美濃戸口 この日は、"5日間"の初日と
- ◎ 8:45 赤岳鉱泉 BC いうことで、気合いマンマン。
- ◎ 9:45 BC 飛 ジョウゴ沢大滝、ナイガラ滝の滝で
- ◎ 9:55 F1 取付 遊んだ後、乙女沢の滝に
- ◎ 15:50 赤岳鉱泉 行くことに…。氷の貴公子

大木 B の 100% 本気のムーブも見せられる。
ま、たく、あの人がどビレイヤー泣かせはいない。
マイスでバックアードフットなんかするなよ…。

1月20日 (中山尾根)

- ◎ 4:30 起床 朝、起きてみると、ヒラヒラと
- ◎ 5:35 BC 飛 雪が舞っていたが、ヒリあえず出発。
- ◎ 6:05 中山乗越 下部岩壁は、降雪後、そして、
- ◎ 7:25 下部岩壁 ルートを間違えたせいもあって、
- ◎ 9:25 上部岩壁 何の支点もない、ベルグラの、スラフ
- ◎ 12:45 行者小屋 何の支点もない、ベルグラの、スラフ
- ◎ 13:05 BC 着 チックな岩を登る。この時点で

梶原、50%ウカを使う…。上部岩壁でも、少し、
かぶり気味の凶角を、ヨジる。ここで梶原100%を
出し切る。あー、疲れたー。

中山尾根は、天候のせいもあって、かなり
キビしかった。

この日を終えて、二人とも、お腹いっぱい。

1月21日 (峰ノ松目沢)

6:30 起床
8:00 BC 飛
取付を求めて迷走

11:00 BC 着
13:30 ジョーゴ沢へ BC 飛
4:30 " 右俣大滝

16:00 BC 着

この日は、峰ノ松目沢に
行く予定だったが、取付が
わからずに、すまよい歩く。
結局、発見し、明日行くことに。
時間があるので、

ジョーゴ沢に行くことに。
梶原と、山田君が、右俣大滝を

ノドして終了。それにしても、山田君は、大木Bに
勝らぬとも劣らぬ、登りっぶりだった。闘魂伝承!!

1月22日 (峰ノ松目沢)

06:00 起床
07:25 BC 登
011:30 峰ノ松目山頂
012:30 赤岩ノ頭
014:00 BC

峰ノ松目沢は、なかなか、
おもしろかった。稜線は、
ただクソダるいラッセルなので、
あんまりおすすめできない。

それよりも、今回は、軽量化という名のもとに、
エスパーズのインナーを持っていかなか。たのだから、
それがアイスワールドの入り口だった。寒波のおかげで
エッセン中でも、息が白い。しかもテントはたったの2人...
死ぬ程、寒かった。これが教訓で西穂〜槍は、
インナーを持っていくことになったとき。

1月23日

下山

ラストに大同心に行く
予定だったが、大木Bは、
乙女沢の滝、梶原は、中山尾根で
もうお腹い、はい。

ハヤ岳は、今回のように定着した方がいい。

中央アルプス 小黒川 ヲバケ沢 (アイ)

▲ 林BOMB. 岸本マコ

1月25日 氷はなかった... トホホ...

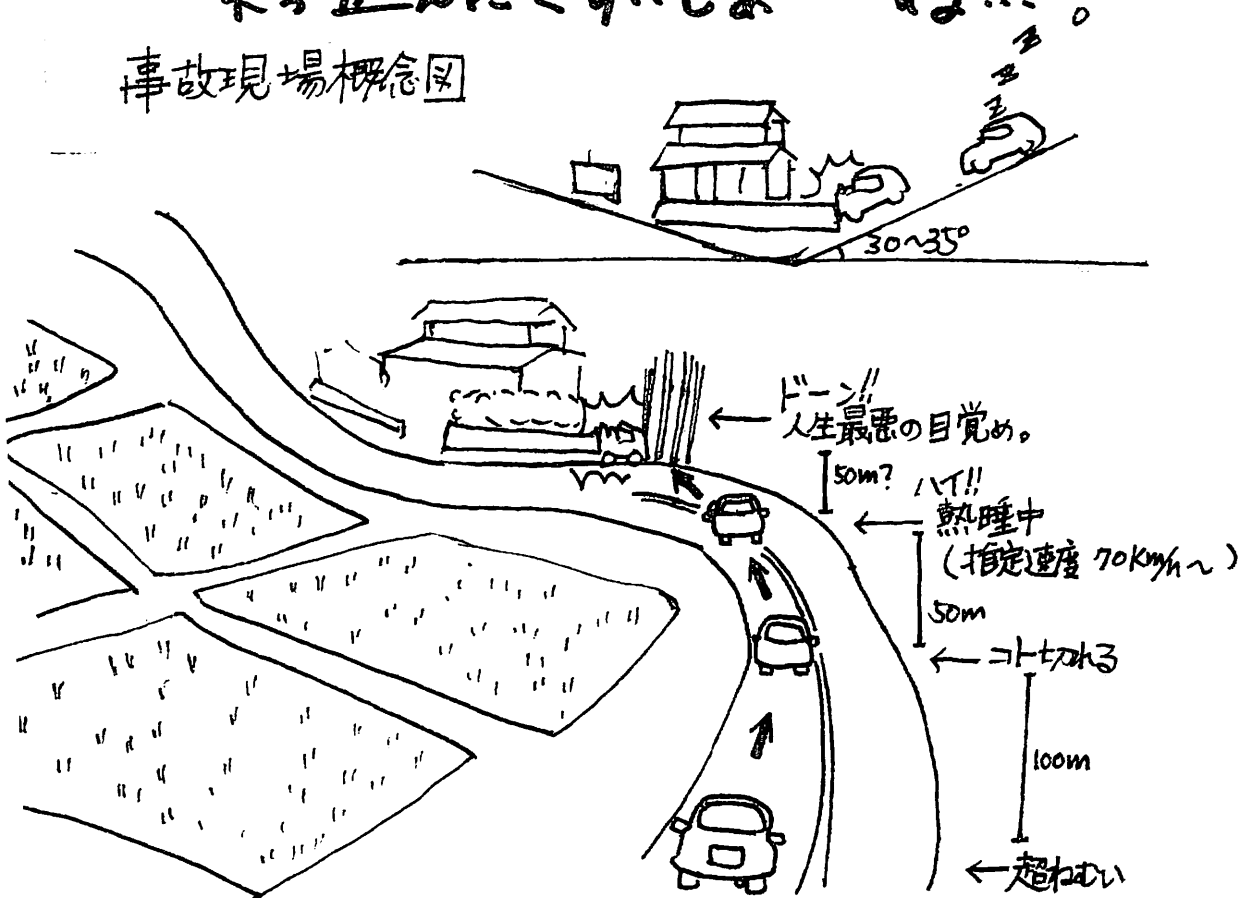
岸本の「マ-4」命日... 奇跡的な生

置をとげた2人... また「奇跡の人」

「運は悪いが悪運は強い!!」

俺達は死なない... 時速80kmで突っ込んだぐらいいいよね...。

事故現場概念図



八ヶ岳 広河原沢 右俣

○ 2000年 1月29日 ~ 1月30日 (1+1)

○ メ= ツム大木 B . 梶原 K

1月29日 (土)

3:30 起床 (前日、林道終点まで) まさに文字通り。

4:35 出発

6:10 右俣出会

瞬殺!! であった。

9:05 南稜に出る。

二人とも、初めてのルートとして

10:15 阿弥陀岳

本格的なもつた。ただけに、

12:05 中央稜 終了

12:40 林道終点着

気合いが入っていた。

しかし、実際は、ひたすらのラッセル。

アイスアックスをサしたのは、おぼろげに10回。

南稜も、ノーザイルでフーだった。

中央稜で1回懸垂した。まあ、しかし、

なかなかおもしろかった。た。で。す。な。...

今度は氷がある時に行きたいね...

○ 中央稜は、最初を分岐が少しわかり

にくい。下の方は、印がたくさん

あるので、下降路に使える。

お詫び

WORD で報告書原稿を作っていたら、「このアプリケーションは、不正な処理を行ったので強制的に終了されます」と突然エラーメッセージが出るとともに、今まで3ページに渡って書いていた文書がすべてお陀仏。いわゆる「クラッシュ」というやつだ。もうどうしようもならない。また書き直す気も起きない。ゆえに…大変申し訳ありませんが、報告は簡潔に終わらせていただきます。クソ、WINDOWS98め。

明神岳西南稜

日程：1月29日(土)～2月1日(火)

メンバー：L 麦谷水郷、中島辰哉

記録：1月29日(土)	17:45	坂巻温泉発
	20:00	上高地(河童橋上テン場)着
1月30日(日)	6:00	上高地発
	7:30	⑦番看板(西南稜取り付き)
	15:00	五峰台地手前テン場着
1月31日(月)	8:40	テン場発
	9:40	五峰
	12:10	⑦番看板
	15:30	坂巻温泉着

明神岳西南稜は、ラッセルあり、簡単な岩場あり、ルートファインディングありと様々な冬山の要素がある。1年を引き連れ、冬山の基本を学ばせるのに適したルートであろう。上回生がフィックスの張り方をおさらいするのもよい。今回は五峰より先の稜線上进行くことができなかった。しかし、五峰から見る限り、その先もかなり魅力的なものがあつた。ぜひとも、皆さんに行ってもらいたいルートである。もちろん僕も再チャレンジするが。

→ パソコンにバックアップが残っていたので
詳細は P15, 16 に…
編集中にギリギリ間に合った原稿。
みな期間を守ろうぜ

太田七カ川野猿の岩場

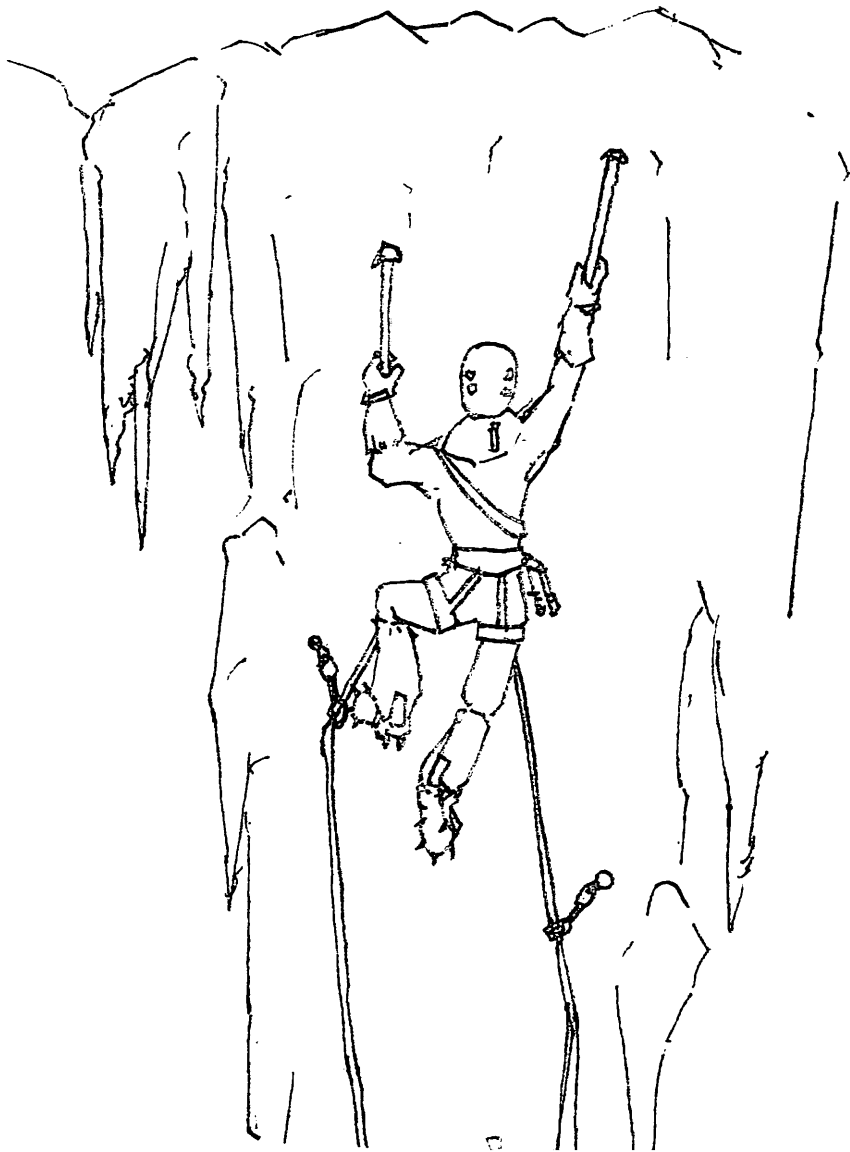
2月4日(金)

リーダー 大木(4). 岸本(4). 梶原(3). 松崎(3). 中村(2)

D沢. 岸本. 松崎 へ?

C沢. 大木. 梶原. 中村

今回、初めてのアイスクライミングリード。あさま! 初体験かや~
。18° マスは、フリーの様によくつかないものな。2-6. 氷は付は
ずれな~. リード最高!!



北アルプス / 霞沢岳・六白山

2/11 ~ 2/13 (5+3) が... 2/11 ~ 2/13 たのみの3日間.

MEMBER.

- 横山 勝丘₂ 岸本 俊朗₃ 松寄 林太郎₂
- 横山 輝生₂ 中川 隆志₁ 中村 圭一₁

松本₅₃₀ 坂巻温泉₇₀₀ 中の湯₈₀₀ 建設省砂防事務所₈₄₅ 霞沢岳₉₀₀ 西尾根_{2300m} T.S.

2/11 冬に通過するのは初めて。滑る。暗い。西尾根取付きはわかりやすい。13:15 外のT.Sあり。京都の山岳会4人パーティと単独の人。京都パーティはピストン。単独の人は手前より明神方面に下りそう。予定より早く登ってほったので早くピストンをはる。

T.S ~ FIX地点 ~ 霞沢岳 ~ K1 F.T.S //
640 745 || 840 925 || 940 1030

ぐらいい天気。FIXははきり言って必要なし。お「どう？」お「平気だけと仰いしね。」お「強さ？」お「うん... 荷物あるし強さとか。」お「じゃあ... 強さう。」ては具合で強った。普通だったら安全を考慮して強って正解。となるのだろうか。ここはどう考えてもいらな...。まあ雪の付き方によって変わってくるのでしょう。早々と山頂につき、K1までも問題もなくやってこめた。これ以上いさら明日何もなし。ということして4時間かぬうちにテントを張る。最高のテント場ナリに没頭する。

T.S ~ 六白山 ~ 1918m ピーク ~ 上高地 ~ 坂巻温泉 //
640 915 || 925 1215 || 1230 1550 || 1620 1800

日中に下山！ということになり出発。六白山までの間は夏にはひびきた1/4マツをゆくに越す)も埋まり、何だか原始的で秘境の雰囲気漂うなかに歩く。朝人が入っていないというのはいいことだ。道は岩稜帯をゆくが特にむずかしいもなく、左側に展開する絶壁と岩壁と稜石見ながら前方には徳高と気分が良い。六白山から河童橋の上を歩く人を見る。「おと3時間くらいいじや？」とか言いながら、山頂から予定通り略垂20m1回。途中ツツをわい竹もあるが、樹林帯を下る。1918mピークをすぎおと少し。と思ったのも束の間、尾根は急な落ち込む。最後の最後に予定外の略垂4回。上から順に、10m、40m、10m。おと少しにも面倒臭い略垂だ。ロープが木にひっかかるとは、樹林帯のオマケしちやだめだね。そんなこんなで、何とか4時前には上高地につく。山行後だけまだたげにはよくわからない。整備された道をてくてくおと坂巻で終了。おと入らないに限る。でもおと面倒臭いかな？ 普通の上高地に飽きたらどう。

P.S 霞沢岳周辺はムズくて面白そうなお雪緩かたくさんある。
アプロ-4も近いし、いいお雪ない？

南了、甲斐駒・金屋

期間: 2/11 ~ 2/14

メンバー

山: 大木, 梶原, 石岡, 里野川

2/11 松本 → 竹宇駒ヶ岳神社
PM 4:00 PM 7:30

2/12 (1日目)

5:00 起床
6:10 駒ヶ岳神社発
12:20 5合小屋
14:00 7合目 T.S

雪のついていない冬道を
ひたすら直登。7合目小屋が営業
していたため、ちょっと上で
ヤミテン。

2/13 (2日目)

5:50 起床
7:50 7合目 T.S 発
9:40 甲斐駒ヶ岳
14:10 T.S 着

甲斐駒への登りは雪が
クラストしていたためラッセルは
ほとんど無し。吾郎がバテてた。

2/14 (3日目) St. Valentine Day

4:30 起床
6:45 T.S 発
8:45 大ギャップ
11:15 " 発
12:15 鋸岳
14:10 百ヶ峯

大ギャップのアンザイレンと
登りはおさまじかった。ホント
さんの実力を目の当たりにする。
ありゃホレた。何はともかく

2月22日～25日

西穂高山～檜ヶ岳 (通称逆コース)

▲ 大木 BOND, 岸本俊朗, 横山勝丘, 梶原恵,

(2/22) 14:15 西ロープウェイ (4名)
15:25 西穂高山荘

軟弱にもロープウェイを使う。ビジターセンターで長谷川さんに挨拶してゆく。雪はかなり多い。

(2/23) 4:00 起床
5:25 start
6:20 独標
7:25 西穂山頂
8:50 間の岳
(9:40) 天狗岳
10:45 コブ尾根の頭下
13:20 奥穂山頂
14:00 白出のコル

このモンツをして グロッキー入る
穂高の稜線。心配していた
風はそれほど強くもなく(若干の凍傷)、快適だった...
といたいのだが、アップダウン
があまりにも激しく、疲労する。
要体力! いや、ホント...
次の日が 沈殿と分かっていた
ので、意地でも白出のコルまで
行きたかった。そしてたどり着いた

奥ホ山荘... , まじくパラダイス! 便所にまで電気がつく
という エキワールド。登山者のための食糧まである...
あまりにも食べ過ぎたので、記せませんわ。カロリーメイト
9個とか... (J.横山の単独犯行)。

(2/24) 沈殿

昨日にヒキつづき、ヒたすら食糧をあせるジャンボ...
優雅に電気の通うトイレでうんこする梶...
妄想レフグワる BOND...
お岩さんのように目を腫らした岸本 (コンタクトのため)...
沈殿ベスト3 にランクされる一日でした。

2/25

5:00 起床
 6:55 start
 8:30 洞沢岳の下り
 10:10 北穂山頂
 12:40 A沢のコル
 14:45 南岳頂上直下
 15:15 南岳小屋

またまたグロッキーな一日……
 けんすも多数登場、しかし
 問題なし。キレットへの下りは
 急いで恐い。我々のクライムダウン
 で下りたが、メンバーによっては
 ガイルが必要。
 強烈な下りに強烈な登り。。

“逆コース”の核心。南岳小屋は小さく、狭く、暗く、汚い……
 沈殿したくない……もちろんエシキもない……おまけに
 生き霊でもいそうな雰囲気だ。

2/26

4:30 起床
 6:00 start
 7:15 大喰岳
 9:05 檜平小屋
 12:50 白出し小屋
 14:45 新穂高温泉

何故が一番グロッキーな一日……
 理由は“ワカン”を持ってきてない
 から……。出発の日、
 BOND曰く
 「え〜!! ワカン持ってくるの?!!
 だって重いじゃん!! トレースある?!!
 ということでワカンはBOXに残置。

トレース? ぜんっぜん。なかったぜ。大喰岳西尾根
 の下の方から腰までの深いラッセル。深いー深いーラッセル。
 「まったくなんなんだこの山行は……呪われてるぜ」と思いなが
 ら黙々とラッセル、「ほんっとにだるい山行だ」と思いなが
 ら皆黙々とラッセル……4人で黙々とラッセル。
 永遠と思われた6時間のラッセル、新穂高温泉での
 会話「二度とこんなだるい所こねえ!」「こんなだるい山行
 初めてだ」「不愉快だ!!」とこんな感じ。リーダーのBONDも
 こんな感じ。感動があまりなかった……

感動と自信は後からやってきた。「逆コース」を2,3年
 だけで無事やりとげた……、ジワジワとやってくる喜び。
 「俺達だけでやりとげた」、素直に自信と実力として
 受けとめたい。せりなるレベルアップに必要不可欠な
 すばらしい山行だったのでないだろうか……。 BOND

阿弥陀岳南稜

期間：2月24日～25日

メンバー：L、松崎（2）横山ノック（2）

24日（雪）舟山十字路発9：40～青ナギT、S着12：06

ルートは明瞭で、迷うこと無し。危険個所もない。あっけない一日だった。狭いテントの中で、ノックと二人♥

25日（晴れ）起床5：00～出発6：45～阿弥陀岳山頂着9：30～中央稜を経て舟山十字路着2：30

晴れていたが、風が強く二人とも顔面凍傷になる。P1、P2、P3技術的に問題なし。一年生がいる場合はザイルを出したほうがよい。中央稜は一回懸垂あり。忠実に尾根を行く。帰りにもみの湯に入る。冬の八ヶ岳の帰りに使える。物足りないルートだったかもしれないが、二人にとっては得るものがあった山行だと思う。

- 30xに転がってる雑人雑感より

3/2 法大山岳部は女の子のマネージャーが4人もいる。うーおなじいそりや。東京の大学の報告書を読みたずに、俺達はいい所に住んでるなあ、じから思う。マネージャー、いんげんやいいなあ。

今年は試みに募集しようかなあ... でもいんげんやあ、やっぱり。

でもうらやましいなあ... 欲しいなあ...

テント帰ってきたらメシ作ってあったりしたらいいなあ...。岸本

3/2 昨日のテントは大成功

やったぜ!! もうほんと有頂天

俺に地球が止まって見えるぜい

よし今日は気分を入れて泳ぐぞ

(R)

明神岳

日程：2000年1月29日(土)～2月1日(火) (実働3日・予備1日)

メンバー：L 麦谷水郷、中島辰哉

1月29日(土)

17:45 坂巻温泉発

20:00 上高地(河童橋テン場)着

1月30日(日)

6:00 上高地発

7:30 ⑦番看板(西南稜取り付き)

15:00 五峰の台地手前テン場着

1月31日(月)

8:40 テン場発

9:45 五峰

10:00 テン場

12:10 ⑦番看板

15:00 坂巻温泉着

当初、28日の晩に上高地まで入山であったが、中島が卒論で忙しく、日程を1日繰り上げた。気の毒であったが、私は是非とも明神に行きたかったのであえて中止にはしなかった。それにこの山行は一応、二人の遠征のためのトレーニングでもあったのだから。

29日、松本をでる前に、綿半でソリを買っていった。ソリの上にザックを載せ、上高地までの圧雪された道路を、あたかも南極探検のようにテクテクと歩いて行こうという思惑だった。これが、実際やってみると予想を上回り、ガラガラ笑ってしまうほど楽チン。、あっという間に上高地に着いてしまう。ソリは冬山で役に立つオプションである。テン場は、私の独断と偏見で、河童橋の上にした。夜、風に吹かれて揺れるテン場はなかなか風流であった。

30日、雲行きが怪しかったが、とりあえず今日は樹林帯なので行けると

ころまで行ってしまえと、出発する。岳沢手前で、愛おしいソリを泣く泣くデボし、次の再会の日まで別れを告げる。踏み後はかすかに残っていたが、雪が積もっており、結局はそれを無視してラッセルする。⑦番看板（西南稜取り付き）まで思ったより傾斜がなく、上高地から1時間半で着けた。しかし、西南稜は傾斜があるだけでなく、雪が深くなっており二人だけのラッセルはなかなかしんどい。ペースもだいぶ落ちてしまう。雪も本格的に降ってきた。記述の岩場はどこか、そこかと、雪と戯れること4時間、ようやくフィックスロープがベタ張りになっている斜面にでた。ロープに導かれ100メートルほど斜面を登ると、やがて小さな頭に着く。そこから、両端が雪崩斜面(沢)にはさまれた岩稜で、雪が積もっていることもあり、少しやらしい。我々はザイルを出さなかったが、1年生がいた場合考えるところだろう。しかし、そこも雪で埋まっている箇所はありつつも、フィックスはベタ張りされていた。岩稜帯を抜けてから、今度は五峰の台地はまだかまだかと二人でぶつぶつ言いながら、よたよたと彷徨う。肩の荷もかなり堪えてきた。樹木の密度は薄くなってきているのに、なかなか五峰の台地にでない。結局、風が強く吹き出し、テープがなくなりルートがあやふやになりかけたので、五峰の台地に着かずしてテントを張ることにした。その日の夜は寒波がやってきて、シュラフの中で体を丸め、ガタガタ震えながら眠りについた。

30日。二人して寝坊した。今日、ピストンは無理だろうと判断して、五峰までに変更する。五峰の台地までまだ結構距離があるのだろうか、と思っていたら、すぐそこであった。昨日、もうちょっと頑張っておけばよかったと後悔する。台地は見るからに、快適、展望もよしだった。五峰は岩帯であったが、別段問題なく行けた。五峰から主峰の明神岳は見えなかったが、四峰、三峰と続く稜線はとても魅力的であった。寝坊したためにとっても惜しいところを逃してしまった。無念。袖を引かれつつも、帰路へと引き返す。あれだけ苦労した西南稜も下りは楽々だった。三時間程で上高地に着く。雪に埋もれたソリを掘り返し、感動の再会を迎えると同時に、ザックを乗せて早速こき使う。所々あるドリ坂ではソリで楽しみ、のほほんと坂巻温泉へと下山した。

明神岳 西南尾根

メニバー L 日高(4) 川井^山(5) 梶原(3) 野川(2)

3/4

5:30	Box出発	標高を上げれば雨は降
7:30	坂巻	らないと思っただのが間違
10:20	上高地	のはじまりだった。
11:30	西南尾根取付手前	1,500m 前後では十分
		で雨が強くなった。雨は降り
	ため退却	また、雨の暗やみの行動
12:00	河童橋下S.	は、上高地といえど、
18:30	TS出発 翌日雨あが下山	絶対 に避ける
20:30	坂巻	べきである。

大正池～釜ノ二間では、最初の雨は、雪崩の
多発地帯。必ず雪崩おろすし。

真暗な中、道がルンゼを横切ってるのかどうかを
判らず、どこが安全地帯なのかわからんまま、雪崩
の跡を乗り越えて行くのは最悪だ。

一歩運が悪ければ埋まっていた。大失敗だった。

3月5日~7日

ハク岳西面アイスクライミング

△大木BOND, 岸本シユンロー

③/⑤

松本

SS

赤広鉾泉

SS

大同心大滝

- 中央ルート (6級くらい)
大木BOND トード
- 左ルート (5級)
岸本リード

③/⑥

南沢大滝

(5級+) 岸本リード 《午前の部》

氷の状態はあまりよくない。スノーシャワーの中を岸本は登っていた。

大同心大滝

④ 中央ルートの右の大凹 (5級くらい)

大木BOND リード

⑤ 右ルート (6級くらい)

岸本リード, 山田達郎リード

③/⑦

赤岩の氷柱 (6級-)

ラッセルしながらたどりついたものの、ボタボタボタボタ水がしきりに落ちてくる。4リ無理, ダメ馬目。

そうと決まれば下山, 下山♡

ハク岳は定着して登りまくるのに限る。

次の目標は

「赤岩の氷柱」「摩利支天沢大滝」

「中岳7-ロアール」

等々

中央アルプス北部縦走

期間：3月10日～17日

メンバー：L、松寄（2）川井（4）日高（3）梶原（2）横山ノック（2）
中村（1）

10日（曇り後晴れ）起床4：30～出発6：40～ブドウの泉7：40
～横山との分岐8：45～稜線2：10～西駒山荘3：40

ラッセルがあつて意外に時間がかかった。1月に比べると積雪量が相当増えている。冬は体力だ。

11日（曇り後雪）起床4：30～出発6：00～西駒ヶ岳山頂9：02
～宝剣山荘T、S9：20

終始風が強い。低気圧の接近のため、宝剣岳は超えなかった。西駒までの稜線は問題ないが、宝剣山荘までは、天気が悪いと迷いやすい。

12日（雪後晴れ）起床5：00～沈殿決定8：30～FIXを俺と日高さんと梶で2ピッチ分張る。

夜半からテントに雪が降り積もり何度か除雪作業に出る。朝になつても晴れる様子はなく、沈殿決定。昼ごろになると、晴れてきたが、宝剣越えの時間が予測できないので、FIXを張るだけとする。テントの中では、名言が出る。だったら振り向かせればいいジャンbyノック。

13日（曇り後雪）起床4：15待機～出発7：00～極楽平TS10：40

中央アルプスは、弱い冬型の気圧配置でも影響が出る。朝から風強く、視界無し。日の出とともに天気が回復し、出発する。宝剣岳を超えたあたりから天候が悪化し、風雪共に強くなる。梶とノックにFIXをがんばってもらい（FIX3箇所、懸垂1回）極楽平につく。それ以上進むのは、困難だったのでテントを張る。風が強くテントを張るのも大変だった。メンバーの体調、今後の天気、予備日の食料などから考えて、明日はここから下山することにした。

14日（晴れ）起床4：30～出発6：00～千畳敷ロープウェイ駅7：50

、エスケープになっていないが、極楽平から下る。前日の悪天がうそのように晴れた。千畳敷の下りは雪崩斜面。慎重にルートを選ぶ。千畳敷カールは冬のぼるところではないと思った。空木まで行けなかったが、内容的には濃いものになったと思う。冬の予備食は充実させ、エスケープをしっかり考えるべきだった。

を覚え一人目を覚ました。目をあけるとテントの生地が目の前に覆い被さっている。雪か？「むむむっ！」起き上がるとしてもつま先まで全部がその調子で身動きが取れない。首を返して周りを見ると被害に遭っているのは風下の私だけのようだ。シュラフ越しに隣に寝ている林太郎にチャランポを食らわせたとき起こす。そうこうして穴倉から抜け出すに間に他のメンバーも何事かと目を覚ました。起き上がってみると私が寝ている側の前室は雪に埋もれかけ、センタポールもだいぶん歪んでいて相当雪が積もっているのがわかる。寝床を奪われつつあった私にとっては状況からして一刻も早い除雪が必要なのは火を見るより明らかだった。問題は誰がそれをするかなのだ。「除雪」の二文字を口にすると明らかにみんなの目の色が変わった。(食糧分けと食器洗いと団装分けになるとこの会の人間は目の色が変わる。)超朝型人間でない限り朝起きていきなり除雪なんて誰でも絶対嫌だ。このときの状況を説明すると他の4人はまだシュラフの中に入ったまま、どういうわけか私一人だけシュラフから半身以上抜け出していた。ガッデム！なんてこった！すなわちスクランブル＝出動！に一番近い状態であったのである。大木は口では「どうする？」と言いながらその目では「お前頼んだ。」と言っている。(しかし断じて責めているのではない。逆の立場だったら同じく私も「頼む光線」を放ちまっくっていただろう。)そんな周囲の無言の圧力に負け私は朝一のお勤めに外へ出た。

案の定外は嵐。テントにはダンロップのロゴがすっぽり隠れるまで雪が積もっている。スコップを手にししばらく雪を掻く。しかし掻いた先から早々に積もり出すのを見て猛烈に脱力しテントに戻る。4時起床は6時に変更し、結局この日は沈殿になり除雪と大貧民にあけくれた。

25日 沈殿！！

三つ玉(!)低気圧はガッツリ一つに合体してこの日も朝から大荒れ。中心気圧は968hpa♪「お前は台風かっつーの。」と思わず突っ込みを入れたくなるような天気図だった。ラジオを聞くとこの悪天は「寒の戻り」と言うやつらしい。確かに寒いし、用足しにも決死の覚悟が必要だ。用便以外に外に出ることはなく文字通りの沈殿。

26日 沈殿っ！！

朝起きても相変わらずの吹雪で沈殿。禁断のレッドゾーンに突入。しかし明日は晴れるとのこと。しかしまたその次の日から下り坂らしく予備日も余裕がなく不帰はあきらめ遠見尾根下山に決定する。

27日 起床4:00～出発6:10～五竜岳10:30～五竜山荘11:00～西遠見T・S着14:00

三日ぶりに太陽を拝む。三沈明けでなまった体に活をいれ行動開始。五竜まではスムーズに進む。山頂付近だけ雲がかかっている視界を奪われる。五竜岳から五竜山荘方面へ下る稜線は山頂からは少しずれていて視界が利かないこの日は下降ポイントを見つけるのに戸惑い山頂直下の斜面に入り込んだりしてしまった。下りに入り少し高度を下げるとさっきまでのホワイトアウトが嘘のように視界が開けた。五竜山荘で一息入れ遠見尾根との分岐にある白岳へ向かう。白岳を超え尾根に入るとそこにはこの三日の間でたっぷり雪を被った木の枝一つ見当たらない遠見尾根があった。下りだというのに腰までのラッセルを強いられ、まさに牛歩のごときペースでしか進めない。しかも左は雪庇、右は新雪たっぷりの斜面でルートどりに気を使う。男五人でもそもそもラッセルを繰り返すとやがて尾根は西遠見に向けてのっぺりとした斜面になりここでどういうわけかラッセルの番が私に回ってきた。見るからに雪崩れそうな斜面。しかしここを下らなければ他にルートはない。南無三。腹をくくり突入。後ろを振り返らずにひたすら下る。下る。下る。五人とも全員が下り終わり安全な場所に着くとようやくみんなに安堵の表情が浮かんだ。下まで下るには中途半端な時間でこの日はプレ冬合宿と同じ西遠見のT.Sで幕営。雪はもういい！！

28日 起床4:00～出発5:45～中遠見6:40～五竜遠見スキー場8:20～スキー場をスッコブでクールに滑り下山！！

尾根の残りを歩いて、スキー場へ突入。色とりどりのボーダー、スキーヤーに混じって我々も臭気を振りまきながらスッコブを巧みに利用して滑り降り今縦走のフィナーレを飾った。(特に上級者コースはお勧め！)

(記：岸本)

鹿島槍ヶ岳東尾根

期間：4月13日～14日

メンバー：L、松寄（3）岸本（4）

13日（晴れ）起床3：30～大谷原発5：20～1260M付近6：15～1875M付近7：17～一ノ沢ノ頭8：06～二ノ沢ノ頭TS9：15

トレースが残っており、天気がよかったので一ノ沢ノ頭まで3ピッチでつく。その先から雪庇が張り出し雪稜らしくなってくる。二ノ沢ノ頭に着き、先へ行くか迷ったが、気温が高く、二人とも睡眠不足だったので、予定通りT、Sとする。

14日（雪後雨）起床3：30～出発5：00～大谷原着8：40

朝起きるとホワイトアウト。待機するが、回復する気配がないので、下山決定。視界がなく、一ノ沢～二ノ沢の頭間で迷いそうになる。標高が下がると、雨になってきた。もう春なのだと思った。平日に山に行くのは止めよう。

雑人雑感より

4/14

東尾根隊下山至しました。昨日は天気がよく、暑すぎるくらい陽気の中、水が3ピッチ程で二ノ沢の頭に着。そのまじりすと、おけいばまがたものを「ねたい」、「明日朝行けばいい」などと、二人して言い歌を重ね、春のお日様の下、日ひなたこころして過ごす。そして今朝、3:30AM起床。外は一転して雪、吹雪のホワイトアウト。とこでかたせけん会話

松 「やほ昨日いとやまがた、スね〜。」

岸 「おさるー、山と女はいつるときにいっけ、こたがる。」

松 「えい、スね。おえつかねいてちいこ〜。」

岸 「うん。つかねいて、いっけへおさるー。」

山と女はいつるときにいっけ!! 二ノ沢鉄則ナリ。

とれにしてても下りは怖かった...

岸

雪訓合宿 in 樽池

期間：4月23日，24日

メンバー：上級生全員

恒例の雪訓合宿。ここ数年乗鞍で行っていたが今年は近くの樽池で行った。二日にわたりピッケルストップなどの基本の復習、スタカット、コンテにおける各テクニックの習得、埋没体験、ビーコンを使用しての搜索訓練等を行った。埋没体験は雪崩に対する意識を高める上で非常によい。

(記：岸本)

新歓コンパにて
ひよこ & 原人



富士山

4/29.30

MEMBER

ダブル横山

{ 横山 シンボ 勝丘
横山 ムク 輝生 }

4/29 松本 車 吉田 〇五合目 ~ 吉田 〇八合目 ~ 吉田 〇山頂 T.S //
おれ→(車) 530 900 11945 1135 1200 1500

4/30 T.S ~ お鉢巡り ~ T.S ~ 五合目 = シャトレセ = 松本 //
おれ→(車) 530 905 905

4/28 は新歓コンパ。3時までのんびりしてました。5時出飛のはずが、ねえこして、5時30分、BOX 列皆に見送られながら出飛。皆はてっぺりもう行かないものと思っただけらしい。山梨との県境がねえこのピーク。右の鬼いて五合目。ねえけと闘いたおから登る。八合目でとまるはずだったが、予定より早いので、高い所でねえようと思い、山頂まで行くことにする。山頂まであと数百メートルの所で、寒くなってきたので目出帽をしようと思った。はずみでメカネが落ち、足下をファンタスティックなスピードで落ちていった。その日は「たられれば」の世界に陥る。翌日、快適にお鉢巡りをすませ、昨日メカネの落ちている沢沿いに下るが見つかるはずもなく、あきらめて下山。帰りの運転は激アワ。0.1もないので、ずっとこわい顔で目を細めながら車を走らせる。ムクのヤローはやく免許とれよ。というわけで、今日の核心は行き帰りの運転でした。それにしても晴れた富士山はいいね。最高！

「略語解説」

横山 J は 横山 シンボ。横山 K は 横山 ^{ムク} knock の略。

SAC は Shinshyu University Alpline Club.

SGC は Shinshyu Golden Castle.

針の木岳 (スキー滑降)

期間：4月30日

メンバー：L、松寄 (3) 川井 (5) 野川 (2、ボーダー)

30日 (晴れ) 起床3:30~扇沢駅発5:30~大沢小屋6:30~稜線着10:20~扇沢駅着12:05

今年は雪が多く、扇沢駅からスキーがはけた。マヤクボ沢は雪崩の危険性があるので、左にルートをとって、針ノ木峠の上の稜線に出る。帰りの滑降は天気もよく最高だった。エッジの効かないような急斜面もあり恐かった。野川はすいすい降りていった。歩くよりも早くそして何よりもあの爽快感がたまらない。

— 雑人雑感お —

3/24 中島討。何と24日 24歳の誕生日を迎え、かつ長野に戻るというハットトリックには至らない、ワンツを決めてしまいました。妻谷は明日帰ってくるでしょう。6000mの世界を体感でき、いい経験でした。高山病は恐ろしい...

3/27 「もう二度と高所登山なんかやんねー」 by 妻谷

3/30 4月よりサラリーマンすることになりました。ここに至るにはまあ何と複雑な過程をへてきたことでしょう。ずばると気持ちの生理がつかれたわけではありませんが、あれ程嫌っていた地質の道をしばし試してみることになります。

野田

南アルプス / 弘法小屋尾根

5/3・4・5

MEMBER

横山 勝正³ 岸本 俊朗⁴ 松寄 林太郎³
横山 輝生³ 野川 謙介²

5/3 松本 豊 夜叉神峠 ~ 荒川虫合 ~ 弘法小屋尾根取付 ~ 2480m T.S //
快晴 320 550 || 610 峠 225 || 840 930 || 950 1520

5/4 T.S ~ 間の岳 ~ 北岳 ~ 池山吊尾根 2700m T.S //
快晴 525 850 || 900 1150 || 1210 1430

5/5 T.S ~ 池山吊尾根取付 ~ 夜叉神峠 //
快晴 510 735 || 820 1030

ゴールデンウィークは山に行きたいけど人の多い所はいやなので人の寄りつかないような所を探し、弘法小屋尾根を見つけた。大糸によると中級登山者には手ごたえのある尾根とあり、楽しみにしていたが、雪がまだ残っていて技術的にむずかしい所は全くなかった。しかし、3日間とも天候に恵まれ、また、北岳山荘までに行ったのは3パーティー1組であって非常に快適で楽しく、新2年生の技術・体力アップにも良い場所であると思う。尾根は長大だが明瞭で途中まで道もありわかりやすい。森林限界を越えると、快適な雪稜が2900m付近まで続く。途中北東から尾根が合流すると、尾根が細くなり、また岩稜帯があらわれ、ロープを出さなくてもいい。徐々に尾根が雪壁に吸収される所はルーフと雪崩に注意(今回は心配なかったが)。目の前の岩稜またはその右側の雪壁に登る今回は雪の状態が良かったので、雪壁を登った(ロープ)。ヒト登りで稜線にたどりつく。あとは強風(思ったより)の稜線をてくてく歩き、吊尾根を下る。冬にはワンランク難しい尾根になるだろう(ラッセル、雪崩、岩稜を登るためロープ使用)。しかし、ここは春~ゴールデンウィークにかけて登る方が快適で良いだろう。ただし、アプローチは鷲ノ尾山を通り、いかげつおぼろげな道なので、この方面倒である。帰りはシャトレーゼでアイス18本(細いのはたべない)食って帰ってきた。良いゴールデンウィークであった。

間の岳、間にあるから間の岳、名前はまんまだが、ここから見る富士山は美しい...



錫杖岳 前衛 フェース

第1ルンセルト・北沢フェースルート

5/13 ~ 5/14

L. 横山 藤丘 3 岸本 俊朗 4 中村 圭一 2

5/13 松本 豊 槍見温泉 ~ 錫杖沢出合B.C ~ 基部 ~ 槍見温泉
430 545 || 600 滝 70 || 800 900 || 1030 1200 //

今年度初の本ファン。意気揚々と出かけた。雪の未だ錫杖沢にあり、目前に前衛フェースがあらわれた。その姿を見て一同アセシ。1ルンセルトが1ルンセルト大滝になってるし、取付は1ピッチ目10mくらい埋まっているし、ハーという感じ。早々とアニバーサリーと注文の多い料理店だけ偵察して下山。いやー今年は雪が99%。おわり。

★中止になつた山行 3/18 旭岳東稜 (悪天のため)
5/15 白馬岳主稜 (もう雪はいい!!)

編集 ゴキッ

一昔前お口 全て手書きだった信大山岳会の報告書にもエキの波が押しよせている。個人的にはあの汚ね一字が好きだ...

現在はまた二割程度と汚染は(感染は?) 目立たないが、いつかOBになつた日に、全てこぎれいなワープロ(パソコン?)の字で書かれた(打たれた?)報告書が届くのた3うか?

大木 BAND

魂の叫び

林 勝也

自分の息だけが頭に響く。はるか上の方に佐トウの背中が見える。止まりそうになるのをこらえ、ただ足を前に出すことだけを考える。一歩歩けばその分確実に目的地に近づく、そのことを支えに歩き続ける。後ろにはノックさんについて声をかけてくれるが、ノドがカラカラで声も出ない。やっとモレーンにたどりつき、凍った斜面を慎重にこえる。先頭は既に殺生ヒュッテまで行ったようだ。残り半分もないと自分に言い聞かせ、歩き続ける。とろとろ残り数十mまで来た。上級生に走れといわれペースを上げるが体が動かない。自然に叫び声が出る。最後は叫びながら転がるようにたどりついた。ステップをきってザックをおろす。エネルギーのどを潤すと、一息つく。ふり返ると下にいる時と景色が一変していた。槍沢がはるか下方まで広がり、走る前に一本取った場所もう見えない。左手を見ると東鎌尾根が見える。山頂まで行けば燕岳もよく見えるはずである。

槍の肩への最後の急登をこえ、槍の穂に取り付く。夢我夢中で登るが、ふと気付くとガスに包まれ、風が強くなってきた。下りが怖いから、とりあえず山頂に登る。すぐに下り始めるが、足場が分かりにくい。気はあせるが落石をおこす訳にはいかないので慎重に下る。槍の肩に戻った時は本当にホッとした。ガスの中を下り、モレーンからシリセードで下る。恐ろしかったが、大分慣れた。山菜を取りながら、三時過ぎにベースキャンプに戻る。約十二時間の行動でヘトヘトになっていた。

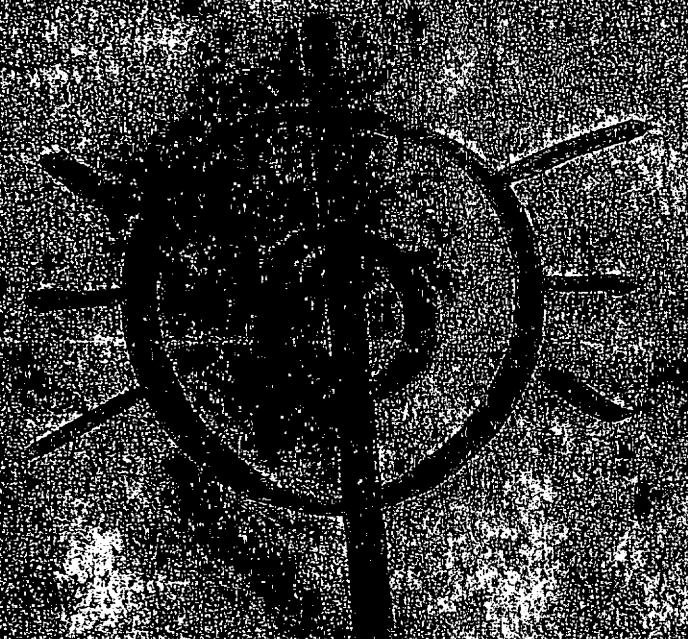
槍に登ることはできたが、反省すべき点は多い。特に体力がないということは、全体の行動力をおくらせ、危険にさらすことになる。だから、

来年こそは遅れせしらず余裕で登ってやる!!
を目標にこれからも頑張ろうと思う。

THE UNIVERSITY OF CHINA PRESS

中国人口学

第二卷 第一期



中国人口学 第二卷 第一期
中国人口学编辑部

2000年12月 100页 3.00元

